

東アジア若手天文学者国際会議 石垣で初開催

天文学研究協力体制の発展を

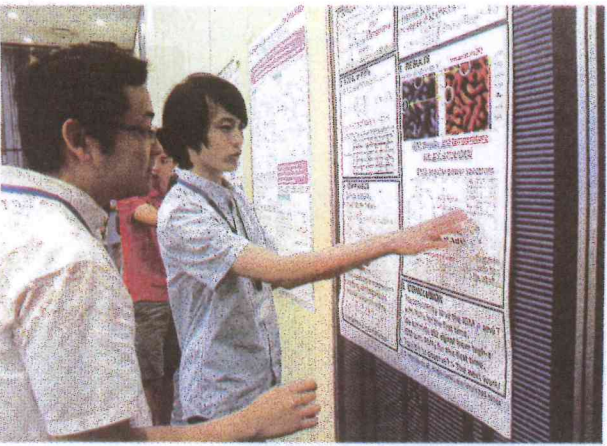


東アジア若手天文学者国際会議が開かれ、発表する主催者の市川幸平さん(14日前、アートホテル石垣八重山の間)

東アジア若手天文学者国際会議2017(主催・コロンビア大学・国立天文台所属市川幸平代表)の研究発表会が13日から17日までの日程で開かれている。日本、台湾、中国、韓国が中心となり、ベトナム、モンゴルも加えた6カ国、約80人の学生や研究者が集い、研究成果を発表する。市川代表によると、会議は2003年に台湾でスタート。今回6回目を日本で開催するにあたり、研究者のメンバーから石垣開催の提案があり、若手の発案で企画されたという。「石垣は東アジアの中心に位置し、その地域からもアクセスが良いため、国立の天文台(電波望遠鏡)の設備があり、1000人規模の大型の国際会議ができる環境とノウハウがあるので決定した」と市川代表。さらに「若手研究者の研究発表が相互作用し、情報をシェアすることによって、東アジア全体で異なる地域との共同研究につながる」と、その意義を強調した。

石垣島で活躍したい 崎枝出身の箕田さん

東アジア若手天文学者国際会議2017に参加したメンバーの中に、地元八重山出身の若手天文学研究者、箕田鉄兵さん(29)がおり、今回の石垣島開催に力を尽くした。



研究テーマについて花山さんに説明を行う箕田さん(右)

箕田さんは、市立崎枝小中学校、八重山高校を卒業後、上智大学に進学し、現在名古屋大学院で初期宇宙の形成について研究を行っている。天文分野に進んだきっかけは、中学生のころ、石垣島天文台を見学して興味を持ったためという。箕田さんは「宇宙を研究することで、地球の環境や自然、ひいては地元石垣の自然が守られる活動をしていきたい。石垣からの研究者は自分以外まだいない。論文を数多く書いて発表し博士課程に進みレベルアップしたい。将来は地元石垣で活躍したい」と意気込みを見せた。石垣天文台施設責任者の花山秀和特殊研究員は「箕田さんの研究は宇宙の成り立ちを理解し、治験を与える。物理法則とつなげ、理論的な計算を行って、宇宙構造を明らかにしたもの。新しくおもしろい研究成果だと思える」と評価し「是非、石垣島に戻り、観測や研究を行って貢献してほしい」と期待を込めた。